

静岡市民文化会館再整備 基本構想・基本計画【概要版】

I 基本構想

1 概要

静岡市民文化会館は駿府城三の丸周辺エリアに立地し、使い勝手の良さから高い稼働率を誇り、文化芸術の拠点として多くの方々に親しまれてきました。

しかし開館から43年が経過し、施設の老朽化が進んでおり、建物の安全性の確保や、現在の市民ニーズへの対応が難しくなっています。

本市では、第3次静岡市総合計画の5大構想として「まちは劇場の推進」を掲げ、だれもが気軽に文化芸術を楽しむことができる仕掛けづくりを通じて、文化芸術活動を促すことで、市民が主役のまちづくりを進めております。また、平成24年に定められた「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（劇場法）」では、劇場・音楽堂等は「新しい広場（人々の共感と参加を得ることにより、地域コミュニティの創造と再生を通じて地域の発展を支える機能）」として、日常的に人々が訪れる施設となるための機能付加が求められています。

そのような状況のなか、アリーナとの複合化や改修・改築といった様々な再整備の検討を行った結果、現在及び将来の多様な利用に対応しうる「**創造的改修**」を行うという再整備方針（令和2年3月）を定めました。

今回の「基本構想・基本計画（案）」では、再整備方針に基づき、「まちは劇場」の拠点施設として、市民文化会館の基本理念と、その実現のために備えるべき機能や解決すべき課題等を検討しました。なお、令和元年度の再整備方針に引き続き、ワークショップやヒアリング等の市民意見聴取を行い、意見を反映しております。



ポイント① 静岡市民文化会館再整備って？

- ・静岡市民文化会館はアーティストのコンサートや市民の皆さんの発表・会議などで多く利用されてきました
- ・開館から43年経ち、古くなっている静岡市民文化会館を改修します
- ・新しい市民文化会館はどうなったらいいの、皆様のご意見も取り入れて構想と計画の案を考えました

★「創造的改修」とは

市民文化会館を

「**安全・安心改修 + ホール機能向上・創造支援機能付加・使いやすく愛着の持てる施設**」とします。

改修後イメージ



ポイント② 「創造的改修」とはどういうことをするのか？

- ・バリアフリーや感染症対策等の安全・安心面の改修をします
- ・ホールの音響・照明設備や客席を新しくします
- ・練習や発表等（創造活動）に利用できる部屋を整備します
- ・将来にわたって使いやすく愛される市民文化会館にします



創造活動イメージ

2 基本理念と果たすべき役割、将来像のフロー

基本理念

劇場が日常になる、日常が劇場になる

～文化芸術を楽しみ、新しい世界と出会い、人と分かち合う場となる～

<劇場が日常になる>

いつも楽しいことがあり、特別な時だけではなく、日常的に通いたくなる場になります

<日常が劇場になる>

文化芸術との出会いにより、生きがいをもって楽しく過ごす人が増え、日常においても「わくわくドキドキ」があふれるまちになります

果たすべき役割

様々な文化芸術活動の
継承・創造・発信の場となる

文化芸術や人との出会いにより
「わくわくドキドキ」する場となる

誰もが生きやすく、暮らしやすくなる
プログラムや場を提供する

文化芸術を通して、まちに「賑わい」
をもたらす中核となる

機能・サービスを向上し、
「選ばれる施設」となる

運営方針

地域や歴史を活かした創造活動の強化
・地域資源（人材、歴史を含む）を活かした
作品創造
・発信力の強化

地域のイベントとの連携
・地域と協働し、イベントをより良くしていく
ための取組の実施

日常的な来訪の促進
・時間をすごせる空間づくり
・いつも楽しいことがある空間づくり
・文化やまちの情報提供

社会包摂の取組
・創造活動への障がい者参加の推進
・表現することによる心身の健康づくりの推進

文化芸術活動の支援
・専門性を活かした相談、支援サービスの実施

運営方針に基づく取り組みの成果＝基本理念の実現

- ・誰でも文化に触れられる環境ができる
- ・次世代のアーティスト、クリエイターが育ち、文化芸術活動の持続可能性が高まる
- ・「選ばれる施設」となり収益性が上がる
- ・市民の「サードプレイス（自宅でも学校や職場でもない「第3の居場所」）」になる
- ・「ユニークベニュー（特別感や地域特性を演出できる会場）」として広く認知・定着する

将来像

「まちは劇場」の推進をはじめとした市の政策において、
様々な社会的課題の解決に寄与し、静岡の輝く個性を世界に発信する役割を果たす

- ・文化芸術を通じて暮らしの楽しさや豊かさを実感し、シビックプライド（自分の住むまちを誇りに思う気持ち）を醸成する
- ・自分の可能性を100%活かせる共生社会の実現
- ・活力ある地域社会の実現
- ・しずおか文化の継承と創造を通じ、「世界への窓」となる

静岡市民文化会館再整備 基本構想・基本計画【概要版】

II 基本計画

1 改修に対してこれまでいただいたご意見

静岡市民文化会館再整備 基本構想・基本計画(案)の策定にあたり、ワークショップやヒアリング等の市民意見聴取を行い、意見を反映しております。

	ご意見	改修後の姿
建物全般	<ul style="list-style-type: none"> 女性トイレが足りなくて、いつも混んでいる 建物が古くて、バリアフリーがされていない 授乳室やおむつ替えのスペースがない 	<ul style="list-style-type: none"> トイレ増設(特に女性トイレ) エレベーター設置(1階~2階フロアー、地下駐車場~ロビー) 親子鑑賞室や授乳室の設置
建物周辺	<ul style="list-style-type: none"> 広場の見通しが悪い、暗い 広場があるのに、あまり使われていない 駿府城公園への散歩帰りに寄れる施設がほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 歩きやすいルート整備 電源盤等イベント用設備の設置 付帯施設(カフェ、コンビニ等)新設
ホール	<ul style="list-style-type: none"> 今と同じくらいの客席は保ってほしい 座席の間が狭くて通りにくい もっと気軽に使える小ホールもほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 大ホールは約2,000席、中ホールは約1,000席を確保 客席の幅や前後間隔を広げる 小規模な発表や展示ができる部屋の整備
練習室・展示室	<ul style="list-style-type: none"> 練習できる場所が足りない 規模の大きい練習室がほしい 展示室が使いにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 練習や発表ができる創造活動スペースの整備 音の出る練習や発表ができるスタジオや練習室の整備 使いやすい展示室や会議室の整備

ポイント③ 静岡市民文化会館はどうなるの？

- 基本構想に基づいて、皆様のご意見も参考に、新しい市民文化会館の建物や広場の計画案を作りました
- 現在の市民文化会館の良さは引き続き活かしていきます
- 現在の市民文化会館に足りない設備、あったらいいなど思う設備を追加します

2 改修後イメージ

創造活動スペースイメージ

◎練習や発表ができる創造活動スペース

- 小規模な発表や展示ができる部屋の整備
- 音の出る練習や発表ができるスタジオや練習室の整備
- 使いやすい展示室や会議室の整備
- 創造活動に関する相談交流スペース設置

◎感染症対策

- ロビー拡張により密を避ける空間を確保
- 建物内の換気機能強化
- オンライン配信設備の追加

◎良質な文化芸術に触れる大ホール

- 約2,000席(大型公演に必要な席数を確保)
- 照明や音響などの設備更新
- ゆったりと快適な客席空間の整備(客席更新、客席幅と前後間隔を広げる)

ホールイメージ

◎使いやすい中ホール

- 約1,000席(市民利用に最適な席数を確保)
- 照明や音響などの設備更新
- ゆったりと快適な客席空間の整備(客席更新、客席幅と前後間隔を広げる)

◎まちの中の魅力的な施設

- 歴史的な景観と調和したデザイン
- 周辺施設、地域と連携した取組
- まちに開かれた空間の整備

ホールイメージ

◎気軽に立ち寄りたくなる広場

- 電源盤等イベント用設備の設置
- 付帯施設(カフェ、コンビニ等)新設
- 歩きやすいルート整備
- 観光バス駐車場確保

◎環境に優しい

- 将来にわたって持続可能な高効率、長寿命の機器の導入
- 再生可能エネルギーの導入

◎のんびり過ごせるロビー

- 思い思いに過ごせる快適な空間づくり
- ロビー拡張により待合スペースの増加
- 雨に濡れない屋外待機スペース確保

◎誰にとっても使い心地のよい施設

- トイレ増設(特に女性トイレ)
- バリアフリートイレ設置
- 雨に濡れない来館ルートの整備
- エレベーター設置(1階~2階フロアー、地下駐車場~ロビー)
- 親子鑑賞室や授乳室の設置

※市民文化会館再整備は、耐用年数を40年と想定し、設計に約3年、工事に約3年(休館期間)かかる見込みです。
 ※費用は、建物に約140億円、広場・地下駐車場に約20億円を見込んでいます。
 ※スケジュールと費用については、第4次静岡市総合計画(2023~2030)内で調整していきます。